

●近年牝馬は強くなったのか

アーモンドアイをはじめとする牝馬の昨年の活躍は目覚ましいものがあった。図1に牝馬限定戦を除く平地重賞競走において牝馬が勝利した割合を示す。これを見ると昨年の牝馬の優勝割合は例年と比較して突出している。しかし、一昨年以前には上昇傾向は見られず、昨年の牝馬の活躍は特別だった可能性も考えられる。一方、昨年に限らず近年牝馬は強くなったとの評価を耳にすることが多いのも事実である。そこで、1988年から2020年までの牝馬と牡馬(セン馬を含む)の勝率の変化を見てみた。

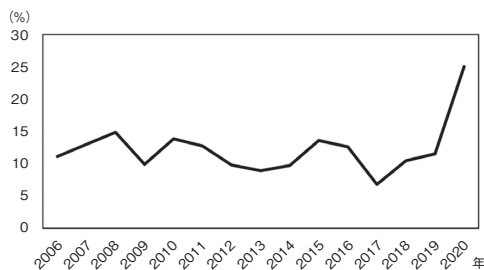
図2は牝馬限定戦を除く平地芝競走(左)およびダート競走(右)の性別勝率の経年変化を示す。近年は牝馬が強くなったとの評判を裏付けるように、芝競走では、ここ5、6年で牝馬の勝率が上昇し、昨年は牡馬の勝率に追いつく勢いがあった。一方、ダート競走では、ほぼ横ばいとなっていた。このような結果を見ると、確かに芝競走では、牝馬が強くなったと考えられる。しかし、1990年代前半以前には芝、ダート競走の両方において牝馬の勝率が牡馬と近かった時期もあり、最近になって初めて牝馬の勝率が上昇して牡馬に近くなったとは言えない。これらのことから考えると、理由ははっきりとわからないが、競走の選択、馬場、調教方法など様々なことが関係して牝馬の勝率が変化している可能性がある。

●様々な要因が関係して牝馬の勝率が変化

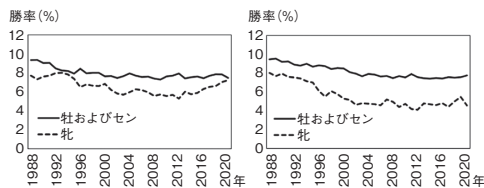
そのような可能性の1つとして、芝競走において牝馬が強くなったのは、タイムが速くなっているためだとする考えもある。しかし、以前に示した最近30年における芝競走のタイムは、30年前から徐々に速くなっており、近年、急激に変化したわけではないこと、さらに牝馬と牡馬は同じように速くなっていることから、タイムが速くなったことが最近の牝馬が強い理由とは考え難い。

また、競走馬自体の改良の方法が、近年の牝馬の強さに関係している可能性も考えられる。最近30年

の競走中の速度上昇は体重増加に起因する可能性が高いことを以前に述べた。この速度上昇は、芝、ダート競走で共通してみられるにもかかわらず、馬体重については、ダート競走出走馬では30年間にわたって増加しているのに対し、芝競走出走馬では、ここ10年ほどは増加が頭打ちになっている。ダート競走では走り方の効率よりも力が必要と考えられ、体重の増加、つまり体を大きくして発揮できるパワーを増やすような改良では牡馬に有利と考えられる。そのため、牡馬と牝馬の勝率の差が変わっていないのかもしれない。一方、芝競走では、近年は、体重増加以外の要因で速度が上がっている可能性がある。体重以外のなんらかの要因が及ぼす競走中の平均速度増加には、牡馬、牝馬に差があるようには見られなかったが、競走後半の走り方など競走の勝ち負けに関係するような部分で、牝馬により有利に働いて近年の牝馬の勝率が上昇したのかもしれない。



▲図1 平地重賞競走において牝馬が勝利した割合(牝馬限定戦、障害競走を除く)



▲図2 牝馬限定戦、牝馬限定戦を除く平地競走の勝率の経年変化(左:芝競走、右:ダート競走、実線:牡およびセン馬、点線:牝)